

決して無理強いしない力強さ。そのルバートとニュアンスは貴方の心にそっと、語りかける。最も耳の超えた聴衆でさえも、虜になるはず。

(英グラモフォン誌 Editor's Choice)

素晴らしい技術を持ち合わせているだけでなく、判断力・精神性・思慮深さ、全てにおいて素晴らしい芸術家であることがその演奏から滲み出ていた。私は、ショパンのバラードで、これ程まで作品の真理に到達できたと感じられたことは、未だかつてない。

(英インディペンデント紙)

ケヴィン・ケナー

Kevin Kenner, Piano



1990年はピアニストケヴィン・ケナーにとって記念すべき年となった。彼の芸術的手腕が3つの名声ある賞の受賞によって世界に認められる年となったからである。その3つとは、ショパン国際ピアノコンクール(ワルシャワ)での最高位(同時に聴衆賞、ポロネーズ賞の受賞)、国際テレンス・ジャッド賞(ロンドン)、チャイコフスキー国際コンクール(モスクワ)での銅賞の受賞(同時にロシア作品最優秀演奏賞受賞)である。それに先立つ1988年にはジーナ・バックアワー国際ピアノコンクール(ソルトレイクシティ)や1989年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール(フォートワース)でも輝かしい成績を残した。

ソリストとして、ハレ管弦楽団、BBC交響楽団、ベルリン交響楽団、ワルシャワ・フィルハーモニー、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ベルギー放送フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団等の世界的に著名なオーケストラ、また米国ではサンフランシスコ、カンザス、ニュージャージー、ローチェスター、ボルティモア他多数の主要オーケストラと共演を果たしている。また、チャールズ・グローヴズ、アンドリュー・デイヴィス、ハンス・フォンク、スタニスワフ・スクロヴァチェフスキ、イェジー・マクシミウク、カジミエシュ・コルト、イルジー・ピエロフラーヴェク、アントニ・ヴィット等著名な指揮者との共演も数多い。

近年の主な活動として、フランス・ブリュッヘンと18世紀オーケストラの共演、Ensemble XIXとの演奏及び録音、1826年のグラフを用いてパリのシテ・ド・ラ・ミュージックでのショパン作品リサイタル、またパデレフスキ生誕150周年の記念コンサート及び録音、日本、米国、メキシコ、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、ポーランドでの演奏ツアー等が挙げられる。

録音も数多く行っており、ショパン、ラヴェル、シューマン、ベートーヴェン、ピアソラと多岐に渡る。近年ポーランドで室内楽カテゴリーにおいて最優秀賞の“フレデリック賞”を授与された。またピリオド楽器にも造詣が深く、1848年のプレイエルを用いて国立ショパン研究所のレーベルで録音したショパンのソロピアノ作品集はフランスのディアパゾン誌にて5つ星を獲得した。今後、ワーナー・クラシックスより、オール・ショパン・プログラム、チョン・キョンファ氏とのデュオ、そしてワルシャワでパデレフスキ自身のスタインウェイピアノを用いて録音した彼のソロピアノ作品集の3枚の新譜を発表予定。

2011年以降、ヴァイオリニストチョン・キョンファからの熱烈なオファーを受け彼女の10年ぶりとなる活動始動に伴いデュオパートナーとして世界ツアーに参加。“美しく穏やかな真珠のような輝きを放つピアニズム”(英・テレグラフ紙)と絶賛されるなど、キョンファのヴァイオリンを引き立てつつ存在感を放つアンサンブルは彼の高度な美的音楽性を聴衆に再認識させている。

英国王立音楽大学教授を経て、2015年9月より米国マイアミ大学フロスト音楽校教授。近年では、第17回ショパン国際ピアノコンクールに参加したチョン・ソンジンからの依頼によりコンクール直前に集中レッスンを行い、見事優勝に導いたことで、ケナーの教育者としての手腕が改めて認められた。

宗次ホール主催の新作コンサートチラシを毎月自宅にお届けする

宗次フレンズ 会員募集

会員登録していただいたフレンズ会員様は一般発売より先行してチケットをご購入頂けます

会員登録・年会費 無料

詳しくは、宗次ホール (052-265-1715) までお問合せ下さい。

交通アクセス
地下鉄栄駅 ⑫ 番出口より東へ徒歩4分

宗次ホール

くらしの中にクラシック

宗次ホール

Munetsugu Hall

名古屋市中区栄4-5-14 〒460-0008
TEL:052(265)1715 FAX:052(265)1716
E-mail info@munetsuguhall.com
URL www.munetsuguhall.com

宗次ホールチケットセンター
営業時間:10:00~16:00
※13:45以降に開演の公演がある場合は18:00まで営業
年中無休(年末年始、施設メンテナンス日を除く)